

1年1組

 花いっぱい 幸せいっぱい
 ～ホワイトハッピーかだん～


いちごさんも冬眠するのかな

冬休み前に『ホワイトハッピーかだん』で育てているいちごの観察をしました。いちごの露地栽培は春から初夏に収穫時期を迎えると言われていています。では、冬の間、いちごたちはどのように過ごしているのでしょうか。調べていくと、いちごは冬の間、休眠をすることがわかりました。子どもたちは、「ええ、くまさんみたいにいちごも冬眠するの」と驚いていました。しかし、本当に冬眠(休眠)しているのかがよくわかりませんでした。また、冬眠中はどのような様子なのかもわかりません。Aさんは、「これは、よく観察するしかない」と言っていちごと睨めっこするかのようによく見ていました。Bさんは、「葉っぱが伸びてないから冬眠していると思う」。Cさんは、「一ヶ月前の写真と比べてみよう。なんだかランナー(いちごのつる)が伸びていたり葉っぱの色が変わっていきたりするように見えるな。冬眠して・・・ないと思う」。Dさんは、「ツルが赤くなっていて、葉っぱの数が少なくなっていた。葉っぱが落ちて、くまさんみたいに土の中で冬眠して、春になったら出てくるのかな」と話していました。



いちごさんの葉っぱがたべられちゃった

冬休み明けの1月9日。窓の外にかわいい羊さんが見えました。3年2組で飼っている羊さんです。2頭はお散歩をしている様子でした。そんな2頭の姿がだんだんと大きくなってきました。1年1組の『ホワイトハッピーかだん』に向かって歩いてきていたのです。「あっ、これはいちごさんやお花さんが食べられちゃうかも!」と慌ててベランダへ出ましたが「パクッ!ムシャムシャ」と、いちごの葉っぱを食べちゃいました。「羊さん、いちごは食べないで」と後から出てきた子どもたちが必死に訴えかけます。羊さんたちは数枚の葉っぱを食べてその場を離れてくれました。とはいえ、1組にとっては、大事件です。その時の子どもの気持ちを聞くとEさんは、「悲しかった。羊さん、葉っぱを食べるのをやめてほしいかった」。Fさんは、「いちごが育たなくなるんじゃないかって心配になった」と話していました。Gさんのように、「羊さん、もう来てほしくない」という声も聞こえてきました。しかし、中には「葉っぱの色が赤くて見たことがない色だったから食べちゃったのかな」という考えや「おいしそうだから羊さんたちが食べちゃったのかな」と羊さん目線で考える子もいました。

これまで、いちごの特徴について学んできた子ども達なので、葉っぱだけではなく部分にも注目していました。Bさんが、「クラウンが残っていれば、そこから新しい葉っぱが出てくるよ」。Cさんは、「土の中には栄養がたくさんあるから、少し葉っぱが食べられちゃっても大丈夫かもしれないよ」と考えを伝えていました。それでも、「葉っぱがこれからも食べられちゃったら、甘いいちごにはならないかもしれないし、大きくなれないかもしれない」と今後の生育に悪影響が出ることを危惧している子どもたちもいました。Dさんが、「いちごさんを守るために、ネットを張ったり工夫したりしていきたいな」と話していました。

植物を育てると、たくさんの不思議や発見に出合います。時にはピンチもあります。そういう中で「なんでだろう。もっと知りたいな」「どうしたらいいんだろう。守るために何ができるだろうか」と思考を働かせ、想いを巡らせていきます。これらの積み重ねによって、気づきの質が高まったり、多角的に物事を捉えられたりする力が養われていくのだと思います。1年1組でも話し合いが行われましたが、同時にいちごを食べちゃった側の3年2組さんでも話し合いが行われていたようです。お互いのクラスにとって、いちごさんも羊さんも大切な存在です。だから本気になって考えられるし、相手の気持ちにも思いを馳せることができるのだと思います。



届くといいな、ぼくたちのいちご

2月の音楽会に向けて、これまでの花壇づくりの様子を歌にしました。謎の実が実ったこと、命を結ぶひまわりさんのこと、そして、春を心待ちにいちごを育てていることを音楽の堀先生と3曲の歌にしました。歌の中に、「だって、クラウンあるから安心してね」という言葉があります。クラウンをしない人にもでも伝わるように、クラウンの被り物を作りました。クラウンとは、いちごの茎の根元のことです。そのクラウン帽子を被ると、いちごになった気分がしました。歌を歌っていると、いつの間にか体が動き、笑顔が溢れ、楽しい気持ちになりました。一年間の私たちのくらしや花壇づくりを通しての発見や喜びを、聞いてくれている人に精一杯届けようとする子どもたちがとっても素敵でした。



うわあ～虫がいる！

1月下旬、1組のいちごさんが、またしてもピンチです。羊さんたちに葉っぱを食べられないようにと、多くのいちごを室内で育てていました。室内は、暖房があり暖かいので、いちごさんたちは、「春が来た」と思ったのでしょう。土にくっついて冬眠していた茎や葉っぱが立ち始めました。クラウン（茎の根元）からは、新しい葉っぱや花の蕾のようなものも出始めました。観察していると、いろいろな発見がありました。Eさんたちのいちごは、クラウンが大きくなっていたり、複数に増えていたりしました。取れてしまった葉っぱの匂いを嗅いだFさんは、「雪みみたいなにおいがするよ」と言うと、近くにいたGさんも匂いを嗅ぎ、「すごい、めっちゃいい匂いする」と驚いていました。Hさんは、「クラウンがなくなっちゃったのかな？それとも、開いたのかな」と不思議そうに見つめていました。すると、Iさんたちのいちごからハエのような虫が飛び出しました。「うわあ～虫がいる」という声にみんなが集まってきます。「なんで虫がいるんだよ」と感情的になる子もいました。Lさんが、「ねえ、見て、ここに花の蕾がある」と言うと、今度は、Jさん達の鉢をみんなで覗き込みました。と、その時、Kさんが、「うわあ～葉っぱの後ろにアブラムシがいっぱいいる」と叫びました。「どうしよう。テントウムシがいればいいけど、いない。どうしよう。」と困っていました。とりあえず、セロハンテープでペタペタとアブラムシを取りましたが、応急処置に過ぎません。よく見ると、他の鉢にもアブラムシがいました。これからは、虫や病気との戦いが待ち受けていそうです。



音楽会の前日、教室で『ホワイトハッピーかだん』の歌を歌っていると、いちごの花が咲いていることに気がつきました。「いちごさんが応援してくれているのかな」「歌を聞いて楽しくなったのかな」と話していました。いちごがぐんぐんと成長することは、とても嬉しいのですが、私たちのいちご栽培の知識や経験が追いついていない現状です。それでも知恵を出し合うと、Lさんは、「虫や動物さん、鳥からも守るハウスを作ろうよ。その中で蜂も飼ったらいいんじゃない」。Mさんは、「てんとう虫もいたほうがいいよ。だって、アブラムシを食べてくれるから」と話していました。Jさんが、「いちご屋さん、どうやっていちごを育てているのか自分の目で見たいな」と言うと、「わたしのおばあちゃん、いちごを育てているから聞いてみる」、「ぼくの家近くにいちご狩りができるところがあるから聞いてみる」と学校外へと子どもたちの意識が広がっていきました。もっといちごのことを知ったり、思いや考えを整理したりしながら、これからのいちごさんとのくらしを構想していこうと思います。

